



# 無線温度センサ変換器 **NWS-Mini** 取扱説明書

IMR02U06-J10 All Rights Reserved, Copyright © 2017, RKC INSTRUMENT INC.

本製品をお使いになる前に、本書をよくお読みいただき、内容を理解された上でご使用ください。なお、本書は大切に保管し、必要ときにご利用ください。本書はNWS-Miniの設置・配線、各部の名称および仕様について説明したものです。

通信データについては、必要に応じて、別冊の **NWS-Mini 通信取扱説明書 (IMR02U07-JC)** を参照してください。別冊の説明書は、当社ホームページからダウンロードできます。ホームページアドレス: <https://www.rkcinst.co.jp/download-center/>

## ■ 付属品の確認

NWS-Mini 設置・配線取扱説明書 (本書).....	1
コイン型リチウム電池 (テスト用電池、NWS-Miniに内蔵).....	1

## ■ 安全上の注意



### 警告

- 本製品の故障や異常によるシステムの重大な事故を防ぐため、外部に適切な保護回路を設置してください。
- すべての配線が終了するまで電源を ON にしないでください。感電・火災・故障の原因になります。
- 本製品は、記載された仕様の範囲外で使用しないでください。火災・故障の原因になります。
- 引火性・爆発性ガスのあるところでは使用しないでください。
- 本製品の分解、修理、および改造はしないでください。感電・火災・故障の原因になります。



### 注意

- 本製品は温度測定以外の用途で使用しないでください。
- 本製品は、産業機械、工作機械、計測機器に使用されることを意図しています。(原力設備および人命にかかわる医療機器などには使用しないでください。)
- 本書に記載されている注意事項を必ず守ってください。注意事項を守らずに使用すると、重大な傷害や事故が起こる可能性があります。また、本書の指示に従わない場合、本製品に備えられている保護が損なわれる恐れがあります。
- 配線を行うときは、各地域の規則に準拠してください。
- 製品の中に金属片や導線の切りくずを入れしないでください。感電・火災・故障の原因になります。
- 端子ネジは記載されたトルクで確実に締めてください。締め付けが不完全だと感電・火災の原因になります。
- 放熱を妨げないよう、本製品の周辺をふさがりご使用ください。また通風孔はふさがりしないでください。
- 設置後に、本製品が正しい温度を測定していることを確認してください。
- 感電防止および機器故障防止のため、内側のプリント配線板には触れないでください。
- 本製品は、リチウム電池を使用しています。プラス (+) 極とマイナス (-) 極の短絡、充電、分解、加圧変形、火への投入などは絶対に行わないでください。電池が破裂、発火、液漏れを起こす恐れがあります。
- 本製品に付属されている電池はテスト用電池です。所定の使用時間を満たさないうちに寿命となる場合があります。
- クリーニングは必ず電源を OFF にしてから行ってください。
- 本製品の汚れは柔らかい布で乾拭きしてください。なお、シンナ類は使用しないでください。変形、変色の恐れがあります。

## ご使用前に

- 本書では、読者が電気関係、制御関係、コンピュータ関係および通信関係などの基礎知識を持っていることを前提としています。
- 本書で使用している図や数値例、画面例は、本書を理解しやすいように記載したものであり、その結果の動作を保証するものではありません。
- 以下に示す損害をユーザーや第三者が被っても、当社は一切の責任を負いません。
  - 本製品を使用した結果の影響による損害
  - 本製品の不適合により誘発される損害
  - 当社において予測不可能な本製品の欠陥による損害
  - 本製品の模倣品を使用した結果による損害
  - その他、すべての間接的損害
- 本製品を継続的かつ安全にご使用いただくために、定期的なメンテナンスが必要です。本製品の搭載部品には寿命があるものや経年変化するものがあります。
- 本書の記載内容は、お断りなく変更することがあります。本書の内容については、万全を期しておりますが、万一ご不審な点やお気づきの点などがありましたら、当社までご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で転載、複製することを禁じます。

## 無線に関する注意

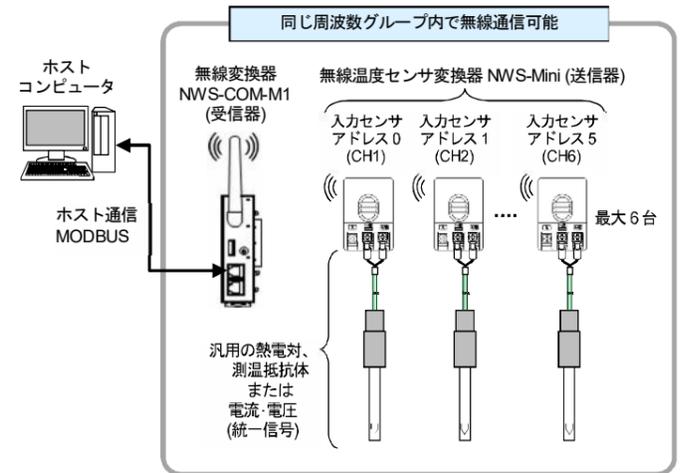
- 本製品は、電波法に基づいて工事設計認証を受けた無線モジュールを内蔵しています。無線局の免許は不要です。また、分解および改造をしないでください。分解および改造は法律で禁止されています。
- 本製品は外国での電波法には準じていません。日本国内でのみ使用してください。
- 本製品の周波数帯 (2.4 GHz) は、医療機器、Bluetooth、無線 LAN 機器などでも使用されています。これらを利用した製品と本製品との間で、電波干渉が発生する場合があります。
- つぎのような環境では、電波状態が悪化したり、電波が届かなかったりする場合があります。
  - 電子レンジなどの磁場、静電気、不要な放射電波の発生する機器の近く
  - 鉄筋コンクリート (マンションなど) や鉄骨構造の建物内
  - 各無線機器の間に、人が入ったり横切ったりする場所
  - 本製品と無線変換器が金属類や液体で遮断される場所
- 電波を使用している関係上、第三者が故意または偶然に傍受することも考えられます。機密を要する重要な事柄や人命にかかわることには本製品を使用しないでください。
- 重大な影響を及ぼす恐れのある機器では使用しないでください。まれに外部から同じ周波数の電波や携帯電話の電波の影響を受け、誤動作、動作の低下、または動作しなくなることがあります。
- 病院など、電波使用が禁止されている場所では、本製品を使用しないでください。本製品の電波で電子機器や医療機器などに影響を及ぼす恐れがあります。
- 航空機の安全運航に支障をきたす恐れがあるため、本製品を持って航空機に搭乗する場合は、搭乗前に本製品の電源を OFF にして、搭乗後も常に電源を OFF にしてください。
- 本製品の使用周波数帯 (2.4 GHz) では、電子レンジなどの 産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局 (免許を要する無線局) および特定小電力無線局が運用されています。
  - 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  - 万一、本製品と移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局との間で、電波干渉が発生した場合には、速やかに本製品の通信チャンネル (周波数グループ) を変更するか、使用する場所を変えるか、または本製品の使用を停止してください。

## 使用環境

- 以下の周囲温度、周囲湿度、設置環境条件の範囲内で使用してください。
  - 許容周囲温度: -20~+70 °C
    - ただし、電池の使用温度範囲が上記より狭い場合は、電池の使用温度
    - 上下限が、周囲温度条件となります。
  - 許容周囲湿度: 5~95 %RH (ただし、結露しないこと)
    - (絶対湿度: MAX.W.C 29 g/m<sup>3</sup> dry air at 101.3 kPa)
  - 設置環境条件: 屋内使用、高度 2000 m まで
- 特に、つぎのような場所での使用は避けてください。
  - 温度変化が急激で結露するような場所
  - 腐食性ガス、可燃性ガスが発生する場所
  - 本体に直接振動、衝撃が伝わるような場所
  - 水、油、薬品、蒸気、湯気のかかる場所
  - 塵埃、塩分、鉄分の多い場所
  - 誘導障害が大きく、静電気、磁気、ノイズが発生しやすい場所
  - 冷暖房の空気が直接あたる場所
  - 直射日光の当たる場所
  - 放射熱などによる熱蓄積の生じような場所
- 発熱量の大きい機器 (ヒータ、トランス、半導体操作器、大容量の抵抗) の真上で使用しないでください。
- 周囲温度が 70 °C 以上になるときは、強制ファンやクーラーなどで冷却してください。ただし、冷却した空気が本機器に直接当たらないようにしてください。
- 耐ノイズ性能や安全性を向上させるため、高圧機器、動力線、動力機器からできるだけ離して使用してください。
- 無線温度センサ変換器と無線変換器はお互いが見える位置で使用してください。また、アンテナ (付属品) をバネに取付け使用する場合も、無線温度センサ変換器とアンテナは、お互いが見える位置で使用してください。
  - 見通し距離: 100 m
  - (ただし、製品の使用環境によって異なります。)

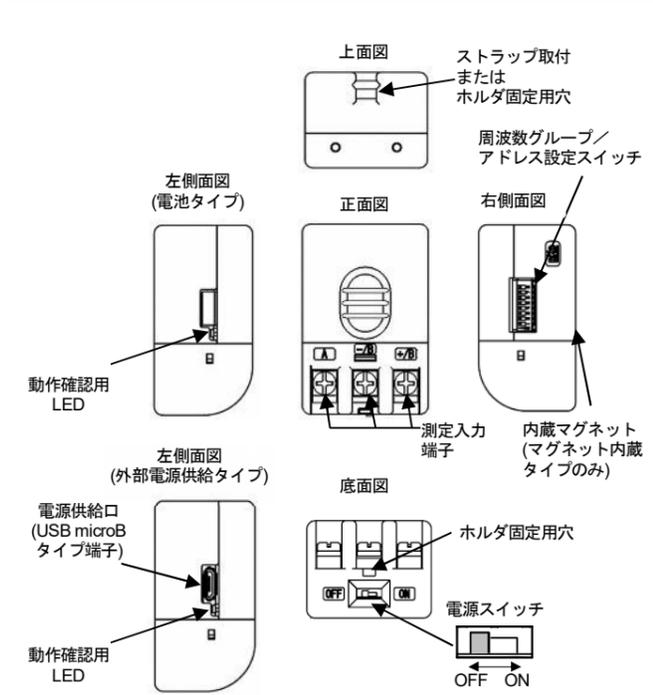
## 1. 特長

無線温度センサ変換器 NWS-Mini は、汎用の熱電対、測温抵抗体または電圧・電流 (統一信号) を接続して、温度測定値を無線通信によって送信することができる変換器です。無線温度センサ変換器 NWS-Mini から送信された温度測定値は、無線変換器 NWS-COM-M1 で受信し、MODBUS 通信によってホストコンピュータと送受信できます。



無線変換器 NWS-COM-M1 については、**NWS-COM-M1 設置・配線取扱説明書 (IMR02U05-JC)** を参照してください。

## 2. 各部の名称



無線変換器と無線温度センサ変換器の設定がすべて終わり、無線通信可能状態になってから、無線温度センサ変換器の電源スイッチを ON にしてください。無線温度センサ変換器は電源スイッチを ON にして、約 5 秒後から測定データを送信します。無線通信ができない状態で電源スイッチを ON にすると無線通信異常状態が続き、無線通信が正常に行われた場合に比べて電力を多く消費するため、電池の寿命が短くなります。

動作確認用 LED は電源スイッチ ON 後、2 秒間点灯し、それ以降はセンサ LED 点灯選択設定によって異なります。

センサ LED 点灯選択設定については、**NWS-Mini 通信取扱説明書 (IMR02U07-JC)** を参照してください。

## ■ 周波数グループ/アドレス設定スイッチ

無線変換器と複数台の無線温度センサ変換器で無線通信を行う場合は、無線温度センサ変換器個々に、周波数グループと入力センサアドレス (入力チャンネル番号) を設定します。設定には小型のマイナスインプラを使用します。設定したデータは、電源を再度 ON にすることで有効になります。

無線通信を行う無線変換器と無線温度センサ変換器は、同じ周波数グループに設定してください。無線変換器と周波数グループの設定が異なると正常に無線通信ができません。

同一の周波数グループ内で同一の無線アドレスグループを使用している場合は、無線温度センサ変換器のアドレス番号が重複しないように設定してください。アドレス番号が重複すると機器故障や誤動作の原因になります。



スイッチ 5: OFF 固定です。(変更不可)

無線通信の周波数グループを設定します。

1	2	3	4	周波数グループ
OFF	OFF	OFF	OFF	グループ 1*
ON	OFF	OFF	OFF	グループ 2
OFF	ON	OFF	OFF	グループ 3
ON	ON	OFF	OFF	グループ 4
OFF	OFF	ON	OFF	グループ 5
ON	OFF	ON	OFF	グループ 6
OFF	ON	ON	OFF	グループ 7
ON	ON	ON	OFF	グループ 8

\* 出荷値 (グループ 1)

1	2	3	4	周波数グループ
OFF	OFF	OFF	ON	グループ 9
ON	OFF	OFF	ON	グループ 10
OFF	ON	OFF	ON	グループ 11
ON	ON	OFF	ON	グループ 12
OFF	OFF	ON	ON	グループ 13
ON	OFF	ON	ON	グループ 14
OFF	ON	ON	ON	グループ 15
ON	ON	ON	ON	設定禁止

周波数グループは、無線周波数帯 (2.402 MHz~2.482 MHz) を 13 に分割したグループです。同一周波数グループ内で無線通信ができます。(周波数グループ: 最大 13 グループ)

無線変換器の周波数グループ設定については、**NWS-COM-M1 設置・配線取扱説明書 (IMR02U05-JC)** を参照してください。

無線アドレスグループの確認および設定/出荷値設定に初期化同一の周波数グループ内で複数台の無線変換器と無線温度センサ変換器で無線通信を行う場合は、周波数グループと入力センサアドレス (入力チャンネル番号) に加え無線変換器と無線温度センサ変換器の無線アドレスグループを設定します。

無線アドレスグループ設定については、**NWS-Mini 通信取扱説明書 (IMR02U07-JC)** を参照してください。

無線温度センサ変換器単体で無線アドレスグループの確認および設定する場合は、右側面にある周波数グループ/アドレス設定スイッチ 5 を ON にした状態で、電源スイッチを ON にしてください。スイッチ 1~4 の設定を行い、動作確認用 LED が点灯したときのスイッチ 1~4 の組み合わせが、現在設定されている無線アドレスグループになります。任意の無線アドレスグループに設定する場合は、スイッチ 1~4 を設定したい無線アドレスグループの組み合わせにした状態でスイッチ 5 を OFF にしてください。



無線アドレスグループの組み合わせ \* 出荷値 (グループ 0)

1	2	3	4	無線アドレスグループ
OFF	OFF	OFF	OFF	グループ 0*
ON	OFF	OFF	OFF	グループ 1
OFF	ON	OFF	OFF	グループ 2
ON	ON	OFF	OFF	グループ 3
OFF	OFF	ON	OFF	グループ 4
ON	OFF	ON	OFF	グループ 5
OFF	ON	ON	OFF	グループ 6
ON	ON	ON	OFF	グループ 7

1	2	3	4	無線アドレスグループ
OFF	OFF	OFF	ON	グループ 8
ON	OFF	OFF	ON	グループ 9
OFF	ON	OFF	ON	グループ 10
ON	ON	OFF	ON	グループ 11
OFF	OFF	ON	ON	グループ 12
ON	OFF	ON	ON	グループ 13
OFF	ON	ON	ON	グループ 14
ON	ON	ON	ON	グループ 15

無線アドレスグループ設定後は一度電源スイッチを OFF にし、スイッチ 5 が OFF になっていること正しい周波数グループの設定になっていることを確認してから電源スイッチを ON にしてください。

スイッチによる無線アドレスグループの設定は、S/N (シリアル) 番号の末尾が F 以降の場合のみ可能です。

出荷値設定に初期化する方法については、**5. 出荷値設定への初期化方法**を参照してください

## 3. 温度センサの接続

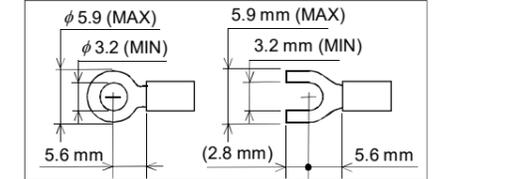


### 警告

感電防止および機器故障防止のため、すべての配線が終了するまで電源を ON にしないでください。また、本機器への通電前には配線が正しいことを必ず確認してください。

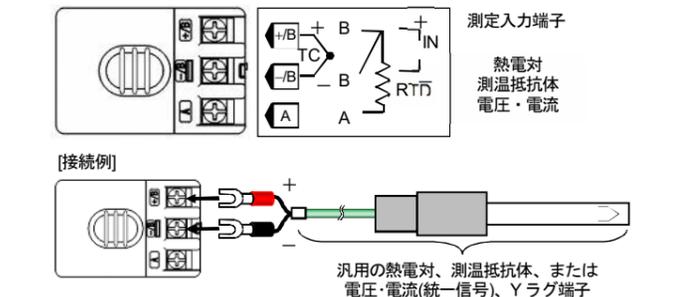
## 3.1 接続上の注意

- 熱電対入力の場合は、所定の補償導線を使用してください。
- 測温抵抗体入力の場合は、リード線抵抗が小さく、3 線間 (3 線式) の抵抗差のない線材を使用してください。
- 電圧/電流入力には、SELV 回路 (IEC 60950-1) からの信号を接続してください。
- 入力信号線はノイズ誘導の影響を避けるため、計器電源線、動力電源線、負荷線から離して配線してください。
- 圧着端子はネジサイズに合ったものを使用してください。
  - 端子ネジサイズ: M3 × 7 (5.8 × 5.8 角座付き)
  - 推奨締付トルク: 0.4 N・m
  - 適用線材: 0.25~1.65 mm<sup>2</sup> の単線または撚り線
  - 推奨圧着端子: 絶縁付き丸形端子 V1.25-MS3 日本圧着端子製造 (株) 製



- 圧着端子などの導体部分が、隣接した導体部分 (端子等) と接触しないように注意してください。

## 3.2 端子構成



## 4. 電池の交換/外部電源接続/ホルダの使用法

### 4.1 電池の交換時期

電池の残量は、無線変換器と接続したパソコン上でホスト通信 (MODBUS) によって確認できます。通信データのバッテリー残量 (0010H~0015H) に「0: 電池交換時期」が表示されたら新しい電池に交換してください。

名称	レジスタアドレス		チャンネル	属性	データ範囲	出荷値
	HEX	DEC				
バッテリー残量	0010	16	CH1	RO*	0: 電池交換時期 1: 電池残量低下 2: 電池残量に余裕あり	—
	0011	17	CH2			
	0012	18	CH3			
	0013	19	CH4			
	0014	20	CH5			
	0015	21	CH6			

\* RO: データの読み出しのみ可能

☞ ホスト通信については、NWS-Mini 通信取扱説明書 (IMR02U07-J口)を参照してください。

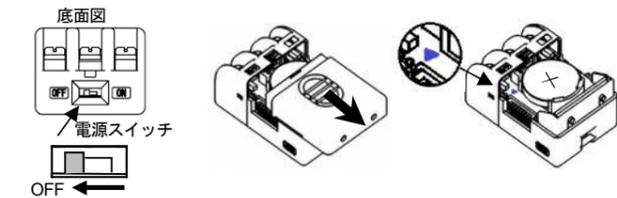
### 4.2 電池の交換方法

#### 警告

- 感電防止および機器故障防止のため、電源スイッチを OFF にしてから、電池交換を行ってください。
- 感電防止および機器故障防止のため、内器のプリント配線板には触れないでください。
- 本製品は、リチウム電池を使用しています。プラス (+) 極とマイナス (-) 極の短絡、充電、分解、加圧変形、火への投入などは絶対に行わないでください。電池が破裂、発火、液漏れを起こす恐れがあります。

#### ■ 電池の取り外し

- 無線温度センサ変換器の電源スイッチを OFF にします。
- 電池カバーを矢印の方向にスライドして取り外します。
- 基板上の矢印 ▲ の箇所(細い棒 (つまようじなど) を差し込む、または指でつまみゆっくりと持ち上げて取り外します。



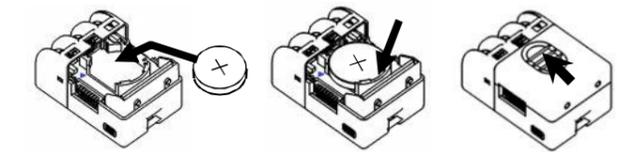
☞ 機器破壊の原因になりますので、金属製の工具は使用しないでください。

☞ 電池が飛び出して危険ですので、電池を取り外すときは勢いよく持ち上げないでください。

☞ 使用済の電池は、プラス (+) 極とマイナス (-) 極にテープを巻き付けて絶縁し、地方自治体の条例または規則に従って廃棄してください。

#### ■ 電池の取り付け

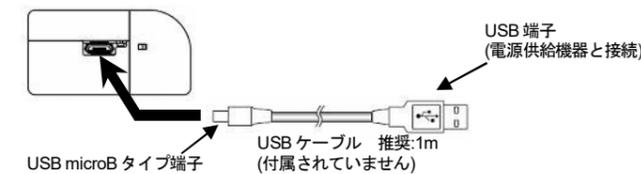
- 新しい電池を「+」側を上に向け、基板上の矢印 ▲ に差し込むようにセットします。
- 斜めの方向に押し、上からカチッと収まるまで押し込みます。
- 電池カバーを取り付けます。



電池型名: CR2032 (コイン型リチウム電池)  
電源電圧: DC +3V

### 4.3 子機外部電源駆動タイプ時の使用方法

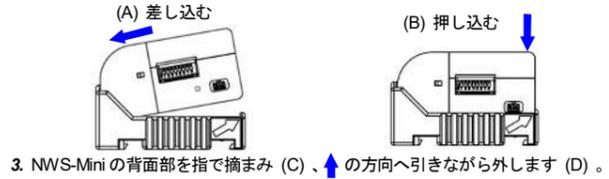
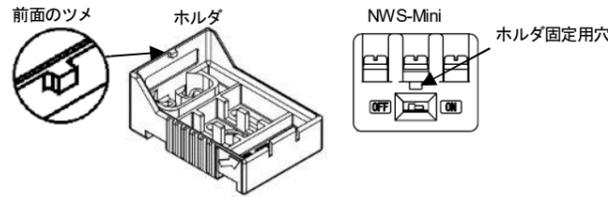
子機外部電源駆動タイプを使用するには、NWS-Mini の電源供給口と電源供給機器 (パソコン、USB 充電器またはモバイルバッテリー等) 間を USB ケーブルで接続して、電源を供給してください。



### 4.4 ホルダの使用法

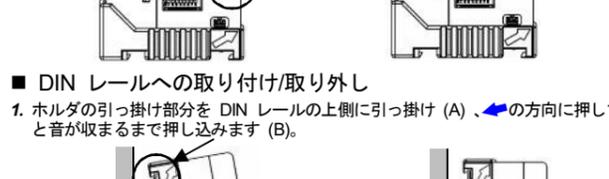
#### ■ NWS-Mini の取り付け/取り外し

- ホルダの前面のツメを NWS-Mini 前面部のホルダ固定用穴に差し込みます (A)。
- NWS-Mini を ↓ の方向に押し、カチッと収まるまで押し込みます (B)。



#### ■ DIN レールへの取り付け/取り外し

- ホルダの引っ掛け部分を DIN レールの上側に引っ掛け (A)、← の方向に押し、カチッと音が収まるまで押し込みます (B)。



#### ■ ネジ取付

ホルダの取付穴を使って、ネジで直接パネル等に取り付けます。

推奨締付トルク: 0.4 N・m

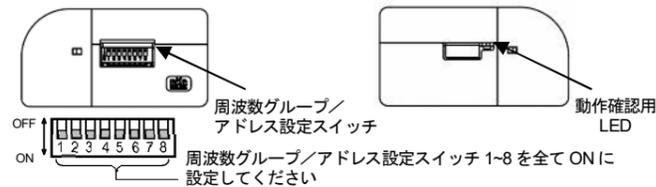
#### ネジ取付時の穴加工寸法

(単位: mm)

☞ ネジは、M3 サイズで取付場所に合った長さのものをお客様で用意してください。

## 5. 出荷値設定への初期化方法

無線温度センサ変換器を出荷値設定へ初期化する場合は、右側面にある周波数グループ/アドレス設定スイッチ 1~8 を全て ON にした状態で、電源スイッチを ON にしてください。初期化が完了すると動作確認用 LED が点灯時間の異なる点滅\*を行います。点滅を確認後、電源スイッチを OFF にし、使用する周波数グループ/アドレスにスイッチ 1~8 を設定してからご使用ください。



\* 点灯時間の異なる点滅: 200ms(消灯)/200ms(点灯)/200ms(消灯)/1000ms(点灯)を繰り返す

☞ 初期化を実行する時はバッテリー残量が「2: 電池残量に余裕あり」または「1: 電池残量低下」であることを確認してから実行してください。バッテリー残量不足警報状態では初期化を実行できません。

☞ 出荷値設定への初期化は、S/N(シリアル) 番号の末尾が F 以降の場合のみ可能です。

## 6. 仕様

#### ■ 入力

測定入力 (PV)

入力点数: 1点

入力種類: 熱電対入力: K、J、R、S、B、E、N、T (JIS C1602-2015)、PL II (NBS)、W5Re/W26Re (ASTM-E988-96 [Reapproved 2002])  
測温抵抗体入力: Pt100 (JIS C1604-2013)、JPt100 (JIS C1604-1981 の Pt100)、Pt50 (JIS C1604-1981)

電圧・電流入力  
サンプリング周期: 0.2\*~1 秒 (無線通信により 0.1 秒単位で変更可能)  
1~60 秒 (無線通信により 1 秒単位で変更可能)  
1~60 分 (無線通信により 1 分単位で変更可能)

\* RTD 入力選択時は最速 0.5 秒です。0.2 秒~0.4 秒を選択しても 0.5 秒で動作します。

入力断線時の動作: アップスケール(熱電対入力/測温抵抗体入力/電圧入力)

入力短絡時の動作: ダウンスケール(測温抵抗体入力)

#### ■ 無線通信

型式: M003001A

認証ラベル: 認証取得済みの無線機器を搭載しています。

周波数帯: 2,402 MHz~2,482 MHz

日本の電波法の規則のため、国内のみ使用可能 (外国では使用不可)

見通し距離 100 m

ただし、製品の使用環境によって異なります。

無線種別: 証明規則第 2 条第 1 項第 19 号に規定する特定無線設備

#### ■ 自己診断機能

自己診断項目	確認時の動作	異常判定方法 <sup>a</sup>	異常判定時期	異常回避方法
断線/短絡警報	ステータスを送信	センサ異常ステータス (0008H~000DH) Bit 0: 0: 異常なし 1: 異常あり	サンプリング周期ごと	センサを正しく接続する。 センサを交換する。
内部温度警報	ステータスを送信	センサ異常ステータス (0008H~000DH) Bit 1: 0: 異常なし 1: 異常あり	サンプリング周期ごと	計器の内部温度を -20~+70 °C 以内にする。
調整データ異常/ バックアップデータ異常	ステータスを送信	センサ異常ステータス (0008H~000DH) Bit 2: 0: 異常なし 1: 異常あり	電源 ON 時およびデータ書き込み時	一度、電源を OFF にしてから、再度 ON にする。 電池を一度取り外してから、再度取り付ける。
A/D 変換値異常	ステータスを送信	センサ異常ステータス (0008H~000DH) Bit 3: 0: 異常なし 1: 異常あり	サンプリング周期ごと	一度、電源を OFF にしてから、再度 ON にする。
バッテリー残量	ステータスを送信	バッテリー残量 (0010H~0015H) 0: 電池交換時期 1: 電池残量低下 2: 電池残量に余裕あり	サンプリング周期ごと	電池を交換する。
バッテリー残量不足警報 無線モジュール異常	動作確認用 LED 低速点滅 <sup>b</sup>	無線通信停止 ステータスによる確認不可	サンプリング周期ごと	電池を交換する。 一度、電源を OFF にしてから、再度 ON にする。

対処方法: 一度、電源を OFF にしてください。電源を再度 ON にした後もエラー状態になる場合は、そのエラー内容を当社営業所または代理店までご連絡ください。

<sup>a</sup> 無線変換器と接続したパソコン上でステータスを確認できます。(ホスト通信使用)

<sup>b</sup> 低速点滅: 800ms (点灯)/1600ms 周期

#### ■ 電池

型名: CR2032 (コイン型リチウム電池)

電源電圧: DC +3V

電池交換: 交換可能

サンプリング周期	熱電対入力、電圧入力	電流入力	測温抵抗体入力
0.2 秒	約 2 日	約 1 日	選択不可
1 秒	約 10 日	約 7 日	
1 分	約 6 ヶ月	約 5 ヶ月	
60 分	約 1 年		

\* 電池寿命は使用条件や環境によって変動するため、保証値ではありません。

#### ■ 電源供給機器

出力電圧: DC +5V

出力電流: 100mA 以上

その他: 安全規格が取得しているもの(推奨)  
過電圧/過電流保護機能など安全機能を有するもの(推奨)  
IoT 機器用のもの(推奨)

\* 微弱な電流で保護機能が働き、電源供給を止めてしまう機能を持つモバイルバッテリーは使用できません。

#### ■ 使用環境条件

許容周囲温度: -20~+70 °C  
ただし、電池の使用温度範囲が上記より狭い場合は、電池の使用温度上下限が、周囲温度条件となります。

許容周囲湿度: 5~95 %RH (ただし、結露しないこと)

(絶対湿度: MAX.W.C 29 g/m<sup>3</sup> dry air at 101.3 kPa)

振動: 周波数範囲: 10~150 Hz

最大変位: 0.075 mm

最大加速度: 9.8 m/s<sup>2</sup>

方向は、X、Y、Z 軸の 3 方向

衝撃: 底面の一边を基準に反対側の辺を高さ 50 mm または 30° のいずれか厳しくない方に持ち上げたときの落下 (X、Y 軸)

#### ■ 取付・構造

設置方法: 卓上、壁掛け、磁石またはホルダによる取り付け  
磁石吸着力 1N 以上 (鉄の平坦な面)

磁石による取り付けはマグネット内蔵仕様のみ  
ホルダによる取り付けはホルダ付仕様のみ

設置姿勢: 基準面 ±90°

ケース色: ブルーイッシュホワイト

ケース材質: PC (難燃度: UL94 V-2)

質量: 約 30 g

## 7. 型式コード

NWS-Mini-□-□□□-□

(1) (2) (3)

- (2) 入力レンジ  
入力レンジコード表参照
- (3) オプション  
N: 標準(オプションなし)  
1: マグネット内蔵  
2: ホルダ付  
3: マグネット内蔵+ホルダ付

#### 入力レンジコード表

入力種類	入力範囲	コード	入力種類	入力範囲	コード
K	-50.0~+600.0 °C	K45	PL II	0.0~+1390.0 °C	A06
J	-200.0~+1372.0 °C	K42	Pt100	-200.0~+850.0 °C	D35
R	-50.0~+1768.0 °C	R08	JPt100	-200.0~+640.0 °C	P30
S	-50.0~+1768.0 °C	S07	Pt50	-200.0~+640.0 °C	PX2
B <sup>*</sup>	0.0~+1800.0 °C	B04 <sup>*</sup>	DC 0~10 mV		101
E	-200.0~+1000.0 °C	E20	DC 0~100 mV		201
N	0.0~+1300.0 °C	N05	DC 0~1 V	0.00~100.00 %	301
T	-200.0~+400.0 °C	T19	DC 0~20 mA		701
W5Re/ W26Re	0.0~+2300.0 °C	W04	DC 4~20 mA		801

\* 400°C未満は上記の精度範囲外です。

MODBUS は Schneider Electric の登録商標です。 初版: 2017 年 7 月 [IMQ01]  
その他、本書に記載されている会社名や商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。 第 10 版: 2024 年 11 月 [IMQ00]

**RKC 理化学工業株式会社** RKC INSTRUMENT INC. ホームページ: <https://www.rkinst.co.jp/>

本社 〒146-8515 東京都大田区久が原 5-16-6  
TEL (03) 3751-8111 (代) FAX (03) 3754-3316 NOV. 2024

技術的なお問い合わせは、カスタマーサービス専用電話 TEL (03) 3755-6622 をご利用ください。